

すべてを含むキリストは良き地である——
水の流れ、泉、源泉があり、谷間と山々に流れている地

聖書：申 8:7, 11:11-12, エレミヤ 2:13, 17:7-8,

イザヤ 12:3-6, ヨハネ 4:14 後半

- I. ガラテヤ第3章14節は言います、「それは、アブラハムの祝福が、キリスト・イエスの中で異邦人に及ぶためであり、わたしたちが信仰を通して、約束されたその霊を受けるためなのです」:
- A. 神がアブラハムに約束した祝福の物質的な面は、良き地でした(創 12:7, 13:15, 17:8, 26:3-4)。それは、すべてを含むキリストの予表です(コロサイ 1:12)。キリストは最終的に、すべてを含む命を与える霊として実際化されているので(I コリント 15:45, II コリント 3:17)、約束されたその霊の祝福は、アブラハムに約束された地の祝福と一致します。
 - B. 実は、わたしたちの経験においてキリストの実際化であるその霊は、良き地であり、わたしたちが享受する神の満ちあふれる供給の源です。これは、「イエス・キリストの霊の満ちあふれる供給」であり、キリストのからだの供給です——ピリピ 1:19。
- II. すべてを含む霊としてのすべてを含むキリストは、「水の流れ、泉、源泉があり、谷間と山々に流れている地」です——申 8:7, 11:11-12:
- A. 水の流れ、泉、源泉は、流れる霊としてのキリストを表徴します(ヨハネ 4:10, 14, 7:37-39, 啓 22:1)。また、谷と山々は、さまざまな種類の環境を表徴しており、その中でわたしたちは流れる霊としてのキリストを経験することができます。
 - B. 全聖書を通して、水としての三一の神に関する一つの路線があります——創 2:10-14, 出 17:5-6, 詩 36:8-9, 46:4, ヨハネ 4:10, 14, 7:37-39, I コリント 10:4, 啓 7:17, 22:1:
 - 1. 創世記第2章10節の川は、命の水の川を表徴します。この川に沿って、命の木が生えています。この川は人の渴きをいやします。
 - 2. 詩篇第36篇8節から9節において、源泉は命の源としての御父を指しており、川は命の水の川としてのその霊を指しています——ヨハネ 1:4, 7:37-39。
 - 3. 詩篇第46篇4節の川は、三一の神がキリストの中でその霊を通して、神の民の命として流れることを表徴します。
 - 4. 命の水が象徴しているのは、神がキリストの中でその霊としてご自身を流し出して、神の贖われた民の中へと入り、彼らの命また命の供給とな

ることです。それは、裂かれた岩から流れ出た水(出 17:6. 民 20:11)によって予表されており、また主イエスの突き刺された脇^{わき}から流れ出た水(ヨハネ 19:34)によって象徴されています。

5. 啓示録第 22 章 1 節にある命の水の川と、創世記第 2 章 10 節から 14 節と詩篇第 46 篇 4 節とエゼキエル書第 47 章 5 節から 9 節にある川は、その流れにおける命の豊かさを表徴します。ヨハネ第 7 章 38 節で示されているように、この一つの川とその豊富は、神の命の霊の各面の豊富に対するわたしたちの経験において、多くの川となります——ローマ 8:2. 15:30. I テサロニケ 1:6. II テサロニケ 2:13. ガラテヤ 5:22-23。

Ⅲ. 水が「谷間と山々に流れて」(申 8:7 後半)いることは、生ける水としてのキリストがさまざまな環境の中で流れることを示しています(参照、列王上 20:23, 28) :

- A. 谷は、十字架の経験、すなわち、キリストの死の経験です。山々は、キリストの復活の経験です——II コリント 1:9. 4:11, 14。
- B. 土の器であるわたしたちの中にある宝としての内住するキリストは、クリスチャン生活のための神聖な供給の源であり、またわたしたちが十字架につけられた生活をして復活の命を現すための卓越した力です——II コリント 4:7. ピリピ 4:13 :
 1. パウロは言いました。彼と彼の同労者たちは、「極度に、耐えられないほどに圧迫されて、生きる望みをさえ失ったほどです。……それは、わたしたちが自分自身に信頼するのではなく、死人を復活させる神に信頼するためでした」——II コリント 1:8-9。
 2. 事実上、復活が現されるためには、死、落胆、失望が必要となります(4 節, 7:5-6)。十字架の働きは、わたしたちの自己を終結させ、わたしたちに復活の神を享受させます。
- C. パウロは、十字架の殺しの下で復活の命を生き、彼の務めを遂行しました。「絶えずこの体に、イエスの致死力が働いています。それはまた、イエスの命が、わたしたちの体に現されるためです」——II コリント 4:10 :
 1. 積極的な意味において、イエスはいつもわたしたちの中のすべての消極的なものを殺しています。それはわたしたちをいやし生かすためです——ピリピ 1:19. 参照、出 30:23-25。
 2. わたしたちが朝、自己を拒絶して、神をわたしたちの中へと受け入れる時、わたしたちは一日中、殺す過程がわたしたちの中で進行しているという感覚を持ちます——参照、箴 4:18。

D. 「なぜなら、わたしたち生きている者はイエスのために、絶えず死に渡されているからであり、それはイエスの命が、わたしたちの死ぬべき肉体に現れるためです」——Ⅱコリント 4:11：

1. 十字架の殺しは、復活の命の現れという結果になります。この日ごとの殺しは、復活の中で神聖な命を解き放つためです——Ⅰコリント 15:31、Ⅱコリント 4:16。

2. 使徒たちは、主イエスが地上で生きたのと同じ生活を生きました。主の生活は、十字架の殺しの下で復活の命を現す生活でした。このような生活は、主のパーソンが主の務めと一であり、また主の生活が主の務めである生活でした——ヨハネ 6:14-15、12:13、19、23-24。

E. 「こうして、死はわたしたちの中で働き、命はあなたがたの中で働くのです」（Ⅱコリント 4:12）。わたしたちが主の死の殺しの下にあるとき、主の復活の命はわたしたちを通して他の人の中へと分け与えられます：

1. 召会が生み出されて増し加わる道は、人の栄光によるのではなく、十字架の死が神聖な命の火を解き放つことによります——ルカ 12:49-50、ヨハネ 2:19、12:24-26。

2. 主は、地に落ちた一粒の麦のように、死を通して彼の魂の命を失いました。それは彼が復活の中で、ご自身の永遠の命を多くの麦粒に解き放つためでした。多くの麦粒として、わたしたちも死を通して自分の魂の命を失わなければなりません。それはわたしたちが復活の中で永遠の命を享受するためです。

IV. エレミヤ書第 2 章 13 節は言います、「わたしの民は二つの悪事を犯したからである。彼らはわたし、この生ける水の源泉を捨てて、自分たちのために水ため、水をためることがない壊れた水ためを掘ったのだ」：

A. 神の民が犯した悪事とは、彼らの源泉、源である神を捨てて、神以外の源へと向かうことでした。

B. 水ためを掘ることが描写しているのは、イスラエルが人の労苦によって苦しみ、何か(偶像)を作って神を置き換えるということです。水ためが壊れて水をためることができないことが示しているのは、生ける水としてわたしたちの中へと分与された神ご自身がなければ、何もわたしたちの渴きをいやすことができず、またわたしたちを神の増し加わりとならせて彼を表現させることもできないということです——ヨハネ 4:13-14。

C. 神の目に、悪しき者、悪を行なう者は、来て彼から飲むことをしない者です(イザヤ 55:7)。悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ、

飲み、享受しないことです。彼らは多くの事を行ないませんが、来て主に触れ、彼を取り、彼を受け、彼を味わい、彼を享受することをしません。神の目に、これほど邪悪なことはありません(57:20-21. 参照、55:1-2)。

V. わたしたちは、救いの泉から水をくみ、そして命の水を飲み、流し出すという習慣を建て上げる必要があります——イザヤ 12:3-6. ヨハネ 7:37-39. 箴 11:25 :

A. わたしたちは、主に対して語ることに、主によって語ることに、主のために語ることに、主の中で語ることに、主と共に語ることに、喜びをもって、救いの泉から水をくむ必要があります——イザヤ 12:3-6. ピリピ 4:6-7, 12. 参照、詩歌 210 番。

B. わたしたちは、主を賛美し、主の中で喜び、いつも感謝をささげ、主に向かって歌う必要があります——I テサロニケ 5:16-18. ピリピ 4:4. ヘブル 13:15. 詩 119:164. エペソ 5:18-20。

C. わたしたちは、主の御名を呼び求める必要があります——使徒 2:21. I コリント 12:13, 3. I テサロニケ 5:17. I コリント 1:2. 士 15:18-19. 哀 3:55-56. 詩歌 65 番。

D. わたしたちは、福音を宣べ伝えて、キリストが完成した事を人に知らせる必要があります——ローマ 1:16. ヨハネ 4:32-34. ピリピ 2:9. I ペテロ 2:9。

E. わたしたちは、わたしたちの存在の中で主に首位を与え、神聖な性質にしたがってあらゆる事を行なう必要があります——啓 22:1. コロサイ 1:18 後半. II ペテロ 1:4。

VI. 神のエコノミーによれば、神に信頼する者は、水のほとりに移植された木のようにです。これは、神が生ける水の源泉であることを表徴しています。木は水のほとりで、その水のすべての豊富を吸収することによって生長します。これは、神の神聖な分与によって遂行される神のエコノミーの絵です——エレミヤ 17:7-8 :

A. これらの木としてのわたしたちは、神聖な分与を受けるために、水としての神を吸収しなければなりません(参照、I コリント 3:6. コロサイ 2:7 前半)。供給する神の豊富は、これらの木としてのわたしたちの中へと分与されて、わたしたちを神の神性で構成し、わたしたちを成長させ、神の度量へと至らせます(19 節)。このようにして、わたしたちと神は一となって、同じ要素、本質、構成、外観を持ちます(啓 4:3. 21:11)。

B. 祈りの意義は、わたしたちが神を吸収することです。わたしたちは神と接触すればするほど、ますます神を吸収します。わたしたちは神を吸収すれ

ばするほど、ますます神を享受します：

1. 「わたしの本当の状態によれば」と言っている詩歌があります(詩歌 724 番、全訳)。これが意味するのは、わたしたちは自分の状態を改善しようとして、変えようとしたりすることなしに、自分の本当の状態で神に来るべきであるということです。わたしたちはこのようにキリストを受け入れました。そしてわたしたちはこのようにキリストの中で歩くべきです——コロサイ 2:6-7 前半。
2. 祈ることは、自分の本当の状態で主に來ることです。わたしたちは主に來るとき、わたしたちの内なる状態を彼の御前に置き、わたしたちがあらゆる事柄で欠けていることを彼に告げるべきです。たとえわたしたちが弱く、混乱しており、悲しんでおり、言葉で言い表すことができなくても、なおも神に來ることができます。わたしたちの内なる状態がどうであっても、わたしたちはそれを神にもたさすべきです。
3. わたしたちは、自分の状態を顧慮するのではなく、神を仰ぎ望み、神を見つめ、神を賛美し、神に感謝をささげ、神を礼拝し、神を吸収することによって、神の臨在の中へと入って神と接触する必要があります。そうすればわたしたちは、神の豊富を享受し、神の甘さを味わい、神を光また力として受け入れ、内側で平安で、明るく、強くなり、力づけられます。それからわたしたちは聖徒たちに言葉を供給しているとき、神と結び付けられ続けるという学課を学びます—— I ペテロ 4:10-11. II コリント 2:17. 13:3.

VII. ヨハネ第 4 章 14 節後半は言います、「わたしが与える水は、その人の内で源泉となり、湧き上がって、永遠の命へと至るのである」：

- A. これが啓示しているのは、流れる三一の神です—— (1) 父は源泉、すなわち源です。(2) 子は泉、すなわち源泉の出現です。(3) 霊は川、すなわち流れです。三一の神は、父、子、霊を通してわたしたちの中へと流れ込み、そしてわたしたちの最も内なる所から流れ出て、他の人たちの中へと流れ込みます——II コリント 13:14. ヨハネ 7:37-38.
- B. 三一の神の流れは、「永遠の命へと至る」のです(4:14 後半)。新エルサレムは、永遠の命の総合計です。「へと至る」という言葉は、「という結果になる」あるいは「となる」を意味します。こういうわけで、源泉としての父、泉としての子、川としての霊は、わたしたちの中へと流れ込み、またわたしたちと共に流れて、永遠の命の総合計としての新エルサレムとなります。